

注意

当日は、現在配布している資料と内容が変更になる場合があります

※その場合は、修正版の資料を当日配布します

ワークシートは変更がありませんので、以下のURLからダウンロードして事前課題の部分に記入をしておいてください（提出等は必要ありません）

<https://docs.google.com/document/d/1NOIMkHgQTr5l1OKmhZfSNh-1mTojMyKc/edit?usp=sharing&oid=107046314162388855585&rtpof=true&d=true>

1



「パフォーマンス評価のための課題の作り方」

2022年8月26日
SPODフォーラム@オンライン

飯尾 健(徳島大学)

本プログラムの目的

1. パフォーマンス課題とは何かを説明することができる
2. 自身の授業にどのようなパフォーマンス課題がふさわしいかを判断できる
3. テスト形式の課題をパフォーマンス課題に置き換えることができる



パフォーマンス課題の特徴を理解しながら、
自分の授業で実施する際のパフォーマンス課題を考えていく

3

本プログラムの概要

① 講義

パフォーマンス評価とは、そのための課題にはどんなものがあるのか理解する

② 講義+個人ワーク

講義を聴いて、実際にパフォーマンス課題を作成してみる
ワークシートを各自ダウンロード・準備しておいてください

<https://docs.google.com/document/d/1NOIMkHgQTr5l1OKmhZfSNh-1mTojMyKc/edit?usp=sharing&oid=107046314162388855585&rtpof=true&sd=true>

③ グループ発表

ブレイクアウトルームに分かれて、作成したパフォーマンス課題を発表
意見交換をしながらブラッシュアップ

4

本プログラムの詳細な内容

- ①講義
講義の前にアイスブレイクを実施、事前にワークシートに記入
- ②講義&個人ワーク
講義を聴き、ワークシートに記入しながらパフォーマンス課題を作成
- ③グループ発表1
ブレイクアウトルームに分かれてワークの内容を発表、意見交換しながらブラッシュアップ
- ④グループ発表2
別のメンバーでブレイクアウトルームに分かれて、パフォーマンス課題を発表
- ⑤まとめ

5

質問について

質問は随時受け付けます
チャット欄に書き込みをお願いいたします

回答は以下のgoogle スプレッドシートに記載します
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1JPrV17kPrjwxBaHDW8dsXHeh8ijs2KXjohyjC5gDvyY/edit?usp=sharing>

「まとめ」の際などでは、時間があれば口頭での質疑も予定しています

6

パフォーマンス評価とは何か

ある特定の文脈のもとで、
さまざまな知識や技能などを用いながら行われる、
学習者自身の作品や実演（パフォーマンス）を直接に評価する方法
(松下, 2012)



レポート・記述式問題
・作品等の成果物



実技・実演
・プレゼンテーション



パフォーマンス評価は目新しいものではなく
すでに身近に行われているもの

7

パフォーマンス評価の特徴

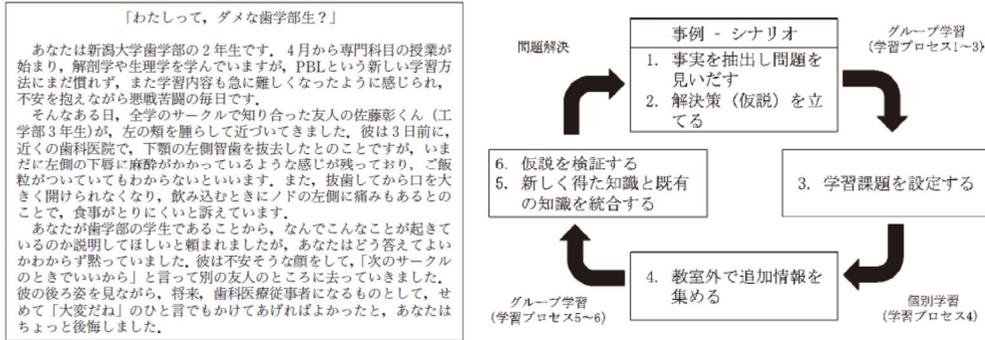
- ①学生の知識・能力を直接見る
- ②特定の文脈の中で行われる
- ③様々な知識・能力を複合したパフォーマンスを行う
- ④複合した知識・能力を評価するための評価基準と専門家の鑑識眼を必要とする
(松下, 2010)



より現実に近い状況設定の中で、知識・能力を発揮できるか
= 「学んだことを実際に活かせるか」を評価する

8

いろいろなパフォーマンス課題①



歯学教育でのPBL (Problem-Based Learning) の例 (小野ほか, 2014)

9

いろいろなパフォーマンス課題②

Directions: Use the image to answer the question below.



Title: "Declaration of Independence: July 4th 1776"
By: N. Currier
Date: Sometime between 1835 and 1856

Question: The image, "Declaration of Independence: July 4th 1776," helps historians understand what happened at the drafting of the Declaration of Independence in 1776.

Do you agree or disagree? (Circle one)

Briefly support your answer:

歴史的思考 (Historical Thinking) のスキルを評価するパフォーマンス課題

歴史の知識や、史料の批判的な検討といったスキルを統合して解く必要がある問題

Stanford History Education Group (n.d.)

10

いろいろなパフォーマンス課題③



図1 集合型風力発電所の例

提供: 幌延町 (オトンレイ風力発電所)

問3. 図1に示した風力発電所は、複数の条件を満たす場所に設置されている。次の(1)~(3)のそれぞれの設置条件について、条件を満たすことによって実現されるメリットとその理由を50字程度で説明せよ。

- (1) 海岸沿いであって、周囲に風を遮るものがない地形である。
- (2) 十分に広いスペースがあって、複数の風車が設置できる。
- (3) 風車の周囲に他の公共施設や民家がない。

機械工学の知識や説明能力、課題解決のための知識応用能力を問うパフォーマンス課題 (国立教育政策研究所, 2018)

11

パフォーマンス評価とルーブリック

パフォーマンス評価は、学生が行う課題と教員の評価基準から成る



課題



評価



評価基準

本プログラムは
こちらにフォーカス

ルーブリックは
評価基準の一種

12

パフォーマンス課題を作る際に考えるべきポイント

① どのような知識・能力を評価したいか=身につけてほしいか

単なる個別的・事実的な知識や限られた状況で用いられる能力だけでなく、さまざまな文脈で使える・応用できるもの(=「深い理解」)を問う

② その知識・能力を発揮させる・必要とするような文脈・課題は何だろうか

実際の生活や仕事の場面を想定した文脈・課題を想定したものにする(=「真正性」)を持たせる

13

パフォーマンス課題の作成①

まず、ワークシート

「①現在実施している授業について記入してください。」に、ご自身の担当する授業について記入してください

これをもとに、パフォーマンス課題を作成していきます

14

パフォーマンス課題の作成方法

① 評価したい=身につけてほしい能力・得てほしい知識を明確にする

例:「主張・根拠・理由から成る論理的な文章を作成する」

② 知識・能力が求められるような課題・文脈を考える

例:「選考や試験等で自身の考えを論理的に示す機会」→ゼミ配属、就職試験等?

③ 求められる行動・作品の具体例を考える

例:「主張(=そのゼミや会社を志望すること)、根拠(=そのゼミや会社の状況や特徴)、理由(=根拠から、なぜ自分が志望するのか)を論理的に組み合わせた志望理由を書かせる」

15

パフォーマンス課題の作成方法

“GRASPS”(ウィギンズ & マクタイ, 2012)にあてはめる

Goal (目的)	克服すべき課題・目的は?	主張・根拠・理由から成る論理的な文章を作成する
Role (役割)	学生はどのような立場で行うか?	あるゼミ(会社)への配属(就職)の希望者
Audience (相手)	どんな対象に向けて行うか?	ゼミの担当教員・会社の人事担当者
Situation (状況)	どんな条件・文脈で行うか?	配属(採用)されるような説得力があること
Product (完成作品)	何のために、何を行うのか?	相手に向けて、自分がなぜそのゼミ(会社)に志望したかを書かせる
Standards (基準)	達成・合格の判定基準は何か?	根拠が正しいこと/根拠から理由が明確に導かれていることetc...

※ただし、必ずしも文脈や状況設定が必須となるわけではない(西岡ほか編, 2015)
 重要なのは学生が行動・作品制作に積極的に参加すること
 =「評価したい知識・能力」を発揮できるようにすること

16

パフォーマンス課題の作成②

ワークシート

「②評価において捉えたい知識や能力を“GRASPS”に即して考えてください。」に、
講義内容を踏まえてご自身の担当する授業について
記入してください

17

パフォーマンス課題の作成②

Goal (目的)	
Role (役割)	
Audience (相手)	
Situation (状況)	
Product (完成作品)	
Standards (基準)	

“GRASPS”にもとづいて具体的な課題のシチュエーションを考える

「専門家はどんな状況で仕事をしているか?」を考えるとよい

18

パフォーマンス課題の作成③

ワークシート

「③②をもとに、パフォーマンス課題を作成してください。」に、
②で記入した“GRASPS”を踏まえて
パフォーマンス課題を作成してください

19

パフォーマンス課題の作成③

②をもとに、パフォーマンス課題を作成してください。

②で考えた“GRASPS”をもとに、パフォーマンス課題を文章化する
(箇条書きでもよい)

20

グループ発表1

今からブレイクアウトルームに分かれて、作成したパフォーマンス課題を発表してください

※ブレイクアウトルームの部屋分けはこちらで行っています

自己紹介も兼ねてワークシートの①→②→③の順で、ご自身の授業とその授業における“GRASPS”、それを捉えるためのパフォーマンス課題を発表してください

※発表順は各部屋の50音順でお願いします

発表の際は、各自ワークシートを画面共有していただけるとスムーズです

21

意見交換・ブラッシュアップ

それぞれの発表後には質疑応答の時間を設けて、他のグループメンバーと意見交換を行ってください

グループで意見交換を行ったら、その結果をもとに課題をブラッシュアップしていきましょう

できれば意見交換をする中で課題を修正して行ってください

グループ全員が発表・意見交換をできるよう時間は各自調整をお願いいたします

22

グループ発表2

今度は別のブレイクアウトルームに分かれて、ブラッシュアップしたパフォーマンス課題を発表してください

※ブレイクアウトルームの部屋分けはこちらで行っています

先ほどと同じワークシートの①→②→③の順で発表してください

※発表順は各部屋の50音順でお願いします

発表の際は、各自ワークシートを画面共有していただけるとスムーズです

各自の発表後は、グループメンバーからの質疑・意見交換を行ってください
(課題のブラッシュアップは必要ありません)

23

まとめ

長時間のプログラムお疲れさまでした!

今回のプログラムが、みなさまの授業改善に少しでも役立てば幸いです

今回の内容をもとに、パフォーマンス評価を自分の授業に導入できるかどうか考えてみてください

評価方法に合わせて学生は学び方も変わってくるので、学生の積極的な学びを促すような評価方法を考えてみてください

将来の仕事や研究とのつながりが連想できるもの、等

24

参考文献

- 国立教育政策研究所 (2018) 『Tuning テスト問題バンク：機械工学・記述式問題』 (https://ee80429c-3a4c-472b-a53f-a4b553ee0c95.filesusr.com/ugd/8c30e2_be3e0997762249de90f65e4714fa0db1.pdf)
- 松下佳代 (2010) 「学びの評価」 佐伯胖監修・渡部信一 編 『学びの認知科学事典』 大修館書店, pp.442-458.
- 松下佳代 (2012) 「パフォーマンス評価による学習の質の評価：学習評価の構図の分析にもとづいて」 『京都大学高等教育研究』 18, 75-114.
- 西岡加名恵・石井英真・田中耕治編 (2015) 『新しい教育評価入門』 有斐閣.
- 小野和宏・松下佳代・斎藤有吾 (2014) 「PBLにおける問題解決能力の直接評価：改良版トリプルジャンプの試み」 『大学教育学会誌』 36(1), 123-132.
- Stanford History Education Group (n.d.) *Declaration of Independence*. (<https://sheg.stanford.edu/history-assessments/declaration-independence>)
- G・ウィギンズ, J・マクタイ著, 西岡加名恵訳 (2012) 『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法－』 日本標準.